

サカエ、年産能力3倍

臨床検査用試薬カートリッジ



東平井工場（群馬）に新ライン

【高崎】サカエ（東京都港区、松本弘一社長）は、東平井工場（群馬県藤岡市）で、臨床化学分析装置向け専用試薬カートリッジの増産体制を整える。約1億円を投じ、2024年度をめぐりに製造ラインを新設する。年産能力を現在の約270万テスト（個）から約3倍の約800万テストにする。糖尿病検査向け需要増などに備える。

サカエは「ヘモグロビンA1c」「ACR（尿アルブミンA1c）」「CR（クレアチニン）」の3項目を1台で測定できるパックス式臨床化学分析装置「アイギアプロ」を市場投入し、項目ごとにカートリッジを提供している。同装置は糖尿病専門病院をはじめ、内科・小児科医院での需要が見込まれている。3項目のカートリッジの需給に柔軟対応できる体制にする。

現在は東平井工場のクリーンルームに試薬分注機4台を設置し、計4ラインで構成して専用試薬カートリッジを製造する東平井工場

いる。このうち老朽化した2ラインを撤去し、新たに1ラインを設置する。カートリッジは「カートリッジ供給―試薬分注―シール溶着―液量検査―印字・印字検査―搬送」の工程で製造する。新ラインは製造個数などの条件設定を変更できるようにするなど効率化し、既存ラインに比べて能力を引き上げる。

同社は09年に糖尿病検査用グリコヘモグロビン分析装置と専用試薬カートリッジを製品化し、実績を積み上げてきた。アイギアプロは糖尿病検査のほか、炎症や細胞・組織破壊などの検査、糖尿病性腎症の早期発見などに対応できる。